



2011年8月1日

太平洋セメント株式会社

新エネルギー（畜産堆肥燃料）のボイラー燃焼試験結果について

太平洋セメント株式会社（本社：東京都港区、社長：徳植桂治）は、地球温暖化対策の一環として、セメント製造等における再生可能エネルギー燃料の利用拡大の研究を進めております。その中の一つとして、2009年より千葉県と共同で、畜産農家が多い地域において需給ギャップを生じている畜産堆肥の燃料利用について研究開発を進めてきました。

3年間の研究の結果、この畜産堆肥を燃料として利用する方法を把握し、業務用ボイラー燃焼試験を実施して、燃料として活用できることが確認できました。

なお、豚糞堆肥燃料を用いて詳細なデータ分析を行ったボイラー実証試験は全国初の試みであり、今後の実用化に向けて更に研究開発を進めてまいります。

1. 背景

畜産県である千葉県は、バイオマスの全賦存量 644 万ト（2010 年）のうち家畜排泄物が 330 万トを占めています。これらの家畜排泄物は堆肥として有効活用されていますが、堆肥の供給量が多い地域では、新たな利用方策が求められています。

当社は地球温暖化対策の一環として、セメント製造等における再生可能エネルギー燃料利用拡大の研究の一つとして、2009年より千葉県と共同研究を開始しました。

2. 共同研究の経過とボイラー試験の内容

本研究の一環としてボイラー実証試験を本年4月19日～22日に実施しました。木質チップを燃料として利用している業務用ボイラーにおいて、発熱量換算で10%を豚糞堆肥に置換えて混焼しました。

試験の結果、10%混焼については、ボイラーの安定稼動に影響は見られず、排気ガスについても大気汚染防止法の基準値以内であり、豚糞堆肥を燃料として利用できることが確認できました。

3. 今後の展開について

セメントキルンや発電用ボイラーでの石炭代替利用スキームを確立し、今後は経済性についても検証を進め、堆肥燃料の千葉県内での堆肥燃料外販事業のスキームを確立していきます。

なお、本件につきましては、本日付千葉県公表の「新エネルギー（畜産堆肥燃料）のボイラー燃焼試験について」も併せてご参照ください。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

太平洋セメント株式会社 総務部 I R 広報グループ
TEL 03-5531-7334